

2019年4月30日～5月1日

安倍・麻生会談、いずもインド洋へ、田中秀征平成政治回顧、代わり、米朝

安倍首相、麻生氏と会談

時事通信 2019年04月30日 21時58分

安倍晋三首相は30日夜、麻生太郎副総理兼財務相を東京・富ヶ谷の私邸に招き、会談した。米国との新たな貿易協定交渉や夏の参院選など令和入り後の重要課題をめぐり意見を交わしたとみられる。

首相と麻生氏が会談 経済情勢巡り意見交換

2019/5/1 00:02 共同通信社

安倍晋三首相は30日夜、麻生太郎副総理兼財務相と東京・富ヶ谷の私邸で約2時間にわたり会談した。国内外の経済情勢や夏の参院選などを含めて今後の政権運営について意見交換したとみられる。

首相の私邸で2人が会談するのは今年1月3日以来。

首相、麻生氏と2時間会談

日経新聞 2019/4/30 23:23

安倍晋三首相は30日夜、麻生太郎副総理・財務相と都内の私邸で約2時間会談した。大型連休明けの国会対応や夏の参院選の情勢などを巡り意見を交わしたとみられる。

JNN2019/04/30

首相の自宅に麻生氏、会談2時間

4月30日夜、安倍総理の自宅を麻生副総理兼財務大臣が訪れ、およそ2時間会談しました。「衆参ダブル選挙」も取りざたされる中、憶測を呼びそうです。

30日午後9時過ぎ、東京都内の安倍総理の自宅を麻生副総理兼財務大臣が訪れ、およそ2時間にわたり会談しました。連休明けの国会対応など、今後の政権運営について意見交換したとみられます。

ただ先月、安倍総理側近の自民党・萩生田幹事長代行が10月の消費税率引き上げの延期や「国民に信を問う」可能性を示唆し、夏の参議院選挙に合わせた「衆参ダブル選挙」も取りざたされる中、深夜の会談は憶測も呼びそうです。

海自護衛艦「いずも」が南シナ海へ出航 中国牽制の狙い

朝日新聞デジタル編集委員・土居貴輝 2019年4月30日 13時40分



家族らに見送られながら海自横須賀基地を出港する護衛艦いずも

＝30日午前、土居貴輝撮影

事実上の空母とするための改修が決まっている海上自衛隊最大のヘリコプター搭載型護衛艦「いずも」が30日午前、南シナ海やインド洋への長期航海のため、海自横須賀基地（神奈川県横須賀市）を出港した。周辺各国への寄港や共同訓練を通じて、中国を牽制（けんせい）する狙いがある。今回は「日本版海兵隊」と言われる陸上自衛隊の水陸機動団の隊員約30人も初めて乗艦した。

午前9時過ぎ、「いずも」は護衛艦「むらさめ」とともに、乗組み隊員の家族ら約250人に見送られながら横須賀基地を出港した。

「インド太平洋方面派遣訓練」と題した南シナ海への長期派遣は今回で2回目。マレーシア、フィリピン、シンガポール、ベトナムなどを訪問し、共同訓練を実施する。7月10日に帰国する予定という。航海中は、周辺海域で米海軍やフランス海軍とも共同訓練が計画されている。

「いずも」型護衛艦をめぐって…

残り：93文字／全文：461文字

「いずも」インド太平洋に長期派遣 水陸機動団が乗艦

日経新聞 2019/4/30 17:51

海上自衛隊は30日、護衛艦「いずも」をインド太平洋方面に派遣した。フィリピン、ベトナムなど東南アジア各国と共同訓練する。政府が掲げる「自由で開かれたインド太平洋」構想の一環で、陸上自衛隊の離島奪還の専門部隊「水陸機動団」の隊員約30人も乗艦する。海洋進出を強める中国を念頭に、抑止力を強化する狙いがある。

水陸機動団が海自の長期航海に参加するのは初めて。7月10日まで派遣し、訪問国との防衛協力を深める。

JNN4月30日 13時27分

海自護衛艦いずも、長期訓練へ出港

事実上の空母への改修が決まった海上自衛隊の護衛艦「いずも」などが、インド太平洋地域での長期訓練に向けて横須賀基地を出港しました。

海上自衛隊最大級の護衛艦「いずも」は30日午前、およそ600人の乗組員を乗せ、家族らが見送る中、インド太平洋地域での訓練のため、横須賀基地を出港しました。訓練は、30日から今年7月10日にかけて、南シナ海やインド洋などで東南アジア各国やアメリカ海軍などで行われる予定です。「いずも」には、離島防衛の専門部隊である陸上自衛隊の水陸機動団も乗艦していて、政府は「自由で開かれたインド太平洋」構想の一環にしたい考えです。

「いずも」は去年12月、事実上、空母に改修することが決まっていて、訓練には海洋進出を強める中国を牽制する狙いもあります。

「歴史認識」決着できず一悔やまれる保守本流の劣化・平成政治一田中元経企庁長官



インタビューに答える田中秀征・元経済企画庁長官

＝22日、東京都中央区

平成の31年間を通じて、日本を取り巻く内外情勢は大きく変化した。新党さきがけ代表代行や経済企画庁長官として「平成政治史」に深く関わった田中秀征元衆院議員(78)に話を聞いた。

－政府は4月1日に新元号「令和」を発表したが、どう感じたか。

言葉の響きがりんとして引き締まった印象だ。僕は気に入っている。前回は昭和天皇の崩御があり、改元はそれに付随している印象だった。今回は「平成が終わる」ということが事前に公表されたので、より印象が強い。

－平成とはどんな時代だったか。

一言で言うなら「停滞の時代」だ。ただ、このまま衰弱していくと結論が出たわけではなく、上へ登るための「踊り場の時代」に変えることもできる。だからこそきちんと平成を総括し、反省した方がいい。

－平成のスタートとほぼ同時期に東西冷戦が終わった。

冷戦が終わってグローバル経済が始まったが、内外の環境変化に日本が前向きな対応をしたかと言えば、残念ながらしなかった。バブルが崩壊し、「空白の20年」が始まった。対応を急がなければいけない時代に後片づけに追われた。自民党には軽武装・経済重視の保守本流と、結党の理念に忠実な自民党本流がある。この時期、保守本流が圧倒的な数と力を得たが、思想性のない人間や2世議員がどんどん入り、本来持っていた政策的な意地や筋をおろそかにし、権力抗争が始まった。

－保守本流と自民党本流の違いは。

一番大きな差は歴史認識だ。終戦直後にあの戦争は間違っていたという認識の下に政権を担当した人たちが、その流れを保守本流と呼んでいる。対する自民党本流は、米国の対日方針が180度変わって日本を反共のとりでにするという米側の思想に乗った人たちが、代表選手は安倍晋三首相のおじいさんに当たる岸信介元首相だ。

冷戦が終わったら自民党はまた分かれて切磋琢磨(せっさたくま)すればいいと思ったが、それを駄目になっているのが、今の選挙制度だ。

－1993年に自民党が初めて下野し、細川連立内閣が発足した。

冷戦時代は自由主義と社会主義・共産主義の目先の対立がすさまじく、戦争の総括が棚上げされていた。僕は92年に細川護国氏と3時間ぐらい話して「(戦争の総括が)棚から降りてくるから、なるべく早くあの戦争への認識を明らかにしないと、謝り続けることになる」と言った。それで細川氏は(首相就任後の)93年8月に記者会見し、侵略戦争を認めた。その年の11月には

韓国・慶州で当時の金泳三韓国大統領と会談し、植民地支配を認めて謝った。

95年には村山富市首相が談話できちっと「たが」を締めた。歴史認識が明確化され、東アジア諸国との友好連携の流れが拡大していくかに見えた。もし村山氏から(自民党総裁だった)河野洋平氏に政権が移ったら(歴史認識で)相当大きな再編が起きたはずだ。うまい具合に二つに割れた可能性があったのに、非常に残念だ。結局、その後は「数あわせの政界再編」になった。民主党だ。

◇「悪夢の2000年」

一度は決着したと思われた歴史認識問題が、21世紀に入って曖昧にされていく。僕は「悪夢の2000年」と呼んでいるが、田中角栄元首相の流れを受け継ぐ政治家が次々に亡くなった。二階堂進元自民党副総裁、小渕恵三元首相、竹下登元首相、梶山静六元自民党幹事長。もう一方の保守本流である宏池会(現・自民党岸田派)が「加藤の乱」という、ばかなことを起こして空中分解した。加藤紘一氏は野党と組んで権力争いを始めた。その結果、長い間、伏流水だった岸(元首相)、福田(起夫元首相)、安倍(首相)と続く自民党本流的な考え方が拡大していった。

－加藤の乱を鎮圧する側だった小泉純一郎氏はその後、首相になった。

彼は人脈上は清和会(現・自民党細田派)、すなわち自民党本流だが、英国留学経験もあって歴史認識は僕と変わらない。ただ、僕はイラク戦争(への日本の協力)を批判した。

－現在、安倍政権が安定している理由は。

自民党本流が表に出てきたひとつの理由として、冷戦が終わり、ナショナリズムが野放し状態になった。その流れの中に安倍政権があった。平成の最初の頃は中韓両国ともうまくいっていたが、「靖国問題」で一気に崩れた。

－自民党は割れそうにないが。

割ろうと思えば割れる。それだけの腹構えの人物がいない。どうもリベラルと呼ばれる人たちは主体性に欠ける。どこかにくつつこうとする。国家意識が薄いから、(韓国艦による自衛隊機への火器管制)レーダー照射のような問題が起きると、(立憲民主党代表の)枝野幸男氏のように口をつぐんでしまう。それなのに、やたらと保守に憧れる。

－立憲は自民党に代わるのか。

あそこだけでは何もできない。小さな「控室」という感じだ。希望の党という小池百合子東京都知事の大型船が沈没するとき、ちょうどそこを走っていた救命ボートのように見える。

－平成を「停滞」ではなく「踊り場」の時代だったと振り返ることはできそうか。

そんな簡単な話ではないが、3、4人の保守本流のDNAを持った人間が立ち上がるしかない。そうすれば一気に動く。

新天皇陛下即位、「令和」に 【平成から令和へ 速報】

2019/5/1 00:10/1 00:12updated 共同通信社

天皇陛下は4月30日、代替わりの重要儀式「退位礼正殿の儀」で最後の「お言葉」を述べられ、この日限りで退位、30年余り

続いた「平成」が幕を閉じました。一方、皇太子さまは5月1日に即位、「令和」元年がスタートしました。皇位継承に関する最新情報をお届けします。(タイムラインは記事出稿の時間)



「退位礼正殿の儀」に臨まれる天皇、

皇后両陛下と皇太子さま＝30日午後5時1分、宮殿・松の間(代表撮影)

5月1日0時2分 新天皇陛下が1日午前0時、即位された。「令和」に改元。前天皇陛下は憲政史上初めて退位し、上皇になった。

20:00 天皇陛下は30日午後7時15分すぎ、皇居・御所で側近らからあいさつを受ける催しに臨み、天皇としての全ての行事を終えられた。

天皇陛下は30日夕、皇居・宮殿「松の間」で、代替わりの重要儀式「退位礼正殿の儀」に臨まれた。85歳の陛下は在位中最後のお言葉で「支えてくれた国民に、心から感謝します」と述べた。象徴のあるべき姿を追求し続けた陛下はこの日限りで退位し、5月1日に59歳の皇太子さまが新天皇に即位する。30年余りの「平成」が幕を閉じ「令和」に改元される。

天皇の退位は、江戸時代の光格天皇以来202年ぶりで、憲政史上初めて。今回は2017年6月に成立した、陛下一代限りの退位を認める皇室典範特例法に基づき行われることになった。

皇族や三権の長らが参列。安倍晋三首相は「天皇陛下は皇后さまとご一緒に、国民に寄り添い、明日への勇気と希望を与えてくださった」と国民代表としてあいさつした。



「退位礼正殿の儀」で、お言葉を述べられる天皇

陛下と皇太子ご夫妻＝30日午後5時8分、宮殿・松の間(代表撮影)

17:13 天皇陛下は、在位中最後のお言葉で「令和の時代が平和で実り多くあることを皇后と共に心から願う」と述べた。

17:11 天皇陛下は、在位中最後のお言葉で「天皇としての務めを国民への深い信頼と敬愛をもって行い得たことは幸せでした」と述べた。

17:09 天皇陛下は「退位礼正殿の儀」で「象徴としての私を受け入れ、支えてくれた国民に、心から感謝します」と在位中最後のお言葉を述べた。

17:06 安倍晋三首相は退位礼正殿の儀で「天皇陛下は皇后さまとご一緒に、国民に寄り添い、明日への勇気と希望を与えてく

ださった」と述べた。

17:01 天皇陛下が在位中最後のお言葉を述べる「退位礼正殿の儀」が30日午後5時から、皇居・宮殿で始まった。

16:39 ロシアのプーチン大統領は30日、退位される天皇陛下に電報を送り、在位中に大きく発展したロシアと日本の関係に関心を注がれたことに感謝を表明した。ロシア大統領府が発表した。

15:32 韓国外務省報道官は30日、文在寅大統領が退位される天皇陛下に書簡を送り、日韓関係発展に寄与されたことなどに謝意を示したと明らかにした。

15:20 政府は30日の閣議で、天皇陛下のお言葉と、安倍首相の国民代表の辞を決定した。

15:13 天皇陛下のお言葉と、安倍首相の国民代表の辞を決める閣議が30日午後、終了した。

15:06 天皇陛下が「退位礼正殿の儀」で述べられる「お言葉」と、安倍晋三首相の国民代表の辞を決める閣議が30日午後、官邸で始まった。

11:51 トランプ米大統領は29日、天皇陛下の退位に際して「米国民を代表し、天皇皇后両陛下に心からの感謝を表明する」との声明を発表した。

11:29 天皇陛下が在位中最後に臨んだ宮中祭祀が午前11時16分、終わった。

4月30日10時6分 天皇陛下が在位中最後となる宮中祭祀が30日午前10時すぎ、皇居・宮中三殿で始まった。



「退位礼当日賢所大前の儀」に臨まれる天

皇陛下＝30日午前10時3分、皇居・宮中三殿(代表撮影)



東宮御所のある赤坂御用地に入られる皇

太子さま＝30日午前11時3分、東京・元赤坂



大阪・道頓堀で「平成」、「令和」と書かれた

紙を持ってポーズをとる女性＝30日午前

新天皇陛下即位＝国民に最初のお言葉一戦後生まれ初、令和始動・皇位継承

時事通信 2019年05月01日04時33分

新天皇陛下が1日、皇位に就かれ、平成に続く令和の時代が始まった。新陛下は同日午前、皇居で国民の代表と会う儀式「即位

後朝見の儀」に臨み、即位してから最初のお言葉を述べる。

新天皇陛下は1960年2月23日生まれの59歳で、お名前は徳仁（なるひと）。戦後生まれの初めての天皇となる。

今回の皇位継承は、2017年6月に成立した「天皇の退位等に関する皇室典範特例法」に基づく。宮内庁の記録によると126代目の天皇となり、現行憲法が規定する象徴天皇としては3代目、現憲法下での即位は2人目。退位した陛下は上皇、皇后さまが上皇后となり、皇太子妃の雅子さまが新皇后となった。

政府は即位儀式として、1日午前10時半から皇居・宮殿「松の間」で皇位の証しとされる剣と勾玉（まがたま）、国の印である国璽、天皇の印である御璽を受け継ぐ「剣璽等承継の儀」を実施する。剣や勾玉は鏡とともに、いわゆる「三種の神器」と呼ばれ、皇室経済法で「皇位とともに伝わるべき由緒ある物」と位置付けられる。

儀式には安倍晋三首相ら三権の長や閣僚らが参列。同席する皇族は前例を踏襲し、成年男性に限定された。

続いて午前11時10分から即位後朝見の儀が行われ、政府、国会、裁判所の要人や地方代表ら約300人が参列。新天皇陛下のお言葉に続き、首相が国民代表の辞を述べる。

皇位継承順位は、皇嗣になった秋篠宮さま（53）が1位、秋篠宮さまの長男悠仁さま（12）が2位、上皇さまの弟の常陸宮さま（83）が3位。皇位継承資格者の減少により、安定的な皇位継承に向けた検討が急務となる。

儀式に先立ち、政府は1日午前の臨時閣議で、二つの即位儀式を国事行為と位置付けることを決定する。

「敬慕の念抱いてきた」 衆参議長、天皇退位で謹話

日経新聞 2019/4/30 17:29

「退位礼正殿の儀」を受け、大島理森衆院議長と伊達忠一参院議長は4月30日、それぞれ謹話を発表した。

大島理森・衆院議長 皇后陛下とともに、わが国と世界の人々の安寧と幸せをお祈りになる日々のお姿に、敬慕の念を抱いてきた。天皇皇后両陛下におかれては、幾久しくお健やかにお過ごしになることを衷心よりお祈り申し上げます。

伊達忠一・参院議長 象徴としての務めを果たさんと皇后陛下とともに「祈りの旅」を続けてこられた陛下のお姿は、国民ひとしく敬慕の念に堪えない。これまでの両陛下の歩みに思いを致し、新しい「令和」の時代が平和で希望に満ちたものとなるよう努めていく。

新天皇即位で各党談話

時事通信 2019年05月01日00時14分

与野党は1日の新天皇陛下即位に当たり、談話を発表した。

自民党 新天皇陛下が即位され、令和のみ代を迎える。新たな時代の幕開けを国民と共に喜びたい。これからも平和な日本を守り継ぐことを国民に誓い、新しい時代がさらに輝き、希望に満ちたものとなるよう、国政運営のかじ取りを進めていく決意だ。

立憲民主党 令和の時代に、国民それぞれが幸せを実感できる社会経済、「まっとうな政治」の実現を目指していく。憲法が定

める象徴天皇制が安定的に継続していくため、皇位継承など皇室・皇位に関わる重要な課題に真摯（しんし）に向き合っていく。

国民民主党 即位された新天皇、皇后両陛下は、国民に寄り添ってこられた上皇、上皇后両陛下のご君徳を受け継いでおられることと拝察する。令和が平和と繁栄の時代となることを願いつつ、国民の声を聴きながら「新しい答え」をつくる決意を新たにしている。

公明党 平和が続き国民があすへの希望と共に、それぞれの個性を輝かせていける新たな時代を開いてまいる決意だ。天皇、皇后両陛下のご健康と皇室のご繁栄を心からお祈り申し上げる。

日本維新の会 新しい時代を切り開くビジョンを描き、国政と地方の両輪で改革を進めるために大きな役割を果たすことを、令和改元に合わせて決意している。

共産党 新天皇の即位に祝意を表す。象徴天皇として、新天皇が日本国憲法を尊重し擁護することを期待する。

天皇陛下即位に関する与野党談話

日経新聞 2019/5/1 0:00

与野党は1日付で、天皇陛下の即位に関する談話などを発表した。

自民党 新たな時代の幕開けを国民の皆様とともによこびたい。自民党は新しい時代がさらに輝き、希望に満ちたものとなるよう、国政運営のかじ取りをしっかりと進めていく決意だ。

公明党 元号に込められた願いである平和が続き、国民一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの個性を輝かせていくことができるよう、新たな時代を開いていく決意だ。

立憲民主党 幸せを実感できる、平和で穏やかな時代となることを心から祈念する。皇位の安定的継承をはじめ、皇室・皇位に関わる重要な課題について真摯に向き合う。

国民民主党 令和が平和と繁栄の時代となることを願いつつ、国民民主党としても様々な課題について国民の声を聴きながら「新しい答え」をつくっていく決意を新たにしている。

共産党 新天皇の即位に祝意を表す。象徴天皇として、新天皇が日本国憲法を尊重し擁護することを期待する。

日本維新の会 歴史と伝統を次の世代へ継承していく責任を強く感じている。新しい時代を切りひらくためにビジョンを描き、実現する。

希望の党 人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つようになり、国運の一層の進展と世界の平和、人類福祉の増進を切に希望する。

社民党 新天皇におかれては、日本国憲法を順守し、日本国および日本国民統合の象徴としてのつとめを果たされることを願う。

共産・志位委員長「即位に祝意」

産経新聞 2019.5.1 05:00

共産党の志位和夫委員長は、1日に天皇陛下が即位されたことにあたり「新天皇の即位に祝意を表します。象徴天皇として、新天皇が日本国憲法を尊重し擁護することを期待します」との談話を発表した。

昭和天皇が崩御され、上皇さまが即位された翌日の平成元年1月8日付の共産党の機関紙「赤旗」は「人権抑圧と侵略戦争を推進 天皇が死去」との見出しの記事を掲載し、ご即位への祝辞はなかった。

各党が天皇陛下ご即位で談話

産経新聞 2019.5.1 00:05

天皇陛下の即位にあたり、各党や党幹部が出した談話などは以下の通り。

自民党

「新たな時代の幕開けを国民とともに慶（よろこ）びたい。日本の歴史と文化伝統、四季折々の美しい自然は、世界に誇るべき国民すべての大切な財産だ。自民党はこれからも平和な日本を守り継ぐことを国民に誓うとともに、新しい時代がさらに輝き、希望に満ちたものとなるよう、国政運営のかじ取りをしっかりと進めていく決意だ」

公明党・山口那津男代表

「元号に込められた願いである平和が続き、国民一人一人が明日への希望とともに、それぞれの個性を輝かせていくことができるよう、新たな時代を開いてまいる決意だ。公明党は天皇陛下のご即位を国民とともにこぞって寿（ことほ）ぎ、わが国と世界の人々の幸福と平和のためにさらなる決意で邁進（まいしん）する」

立憲民主党・枝野幸男代表

「新たな天皇陛下とともに迎えた令和という時代が、国民一人ひとりにとって幸せを実感できる、平和で穏やかな時代となることを心から祈念する。立憲民主党は国民から負託を受けた政党としてその課せられた責任を果たし、それぞれに幸せを実感できる社会経済、『まっとうな政治』の実現を目指していく」

国民民主党・玉木雄一郎代表

「ご即位は国民に対してわが国へのゆるぎない誇りと未来への希望をもたらすものだ。令和の時代が平和と繁栄の時代となることを願いつつ、国民民主党としても、さまざまな課題について国民の声を聴きながら『新しい答え』をつくっていく決意を新たにしている。国民民主党は、天皇と皇室を国民国家の象徴と仰ぎつつ、日本の良き歴史と伝統を尊重する政党として、国民と皇室を結ぶ敬愛と信頼の絆が一層深まることに努力を惜しまないことを約束する」

日本維新の会・松井一郎代表

「新しい御代になり、今秋執り行われる即位礼正殿の儀、大嘗祭（だいじょうさい）、来年の立皇嗣の礼まで皇位継承の儀式がつつがなく行われ、国民こぞって寿ぐことができることを望む。新しい時代を切り拓（ひら）くためにビジョンを描き、実現する。国政と地方の両輪で改革を進めるために大きな役割を果たしていくことを令和改元に合わせて改めて決意している」

社民党・又市征治党首

「安倍晋三政権は『新時代』をアピールするとともに、お祭り気分をあおることで、日本が直面している政治的な難問や経済的な難問を棚上げし、政権浮揚に結びつけようとしている。皇位継承や改元の政治利用は認められない。西暦か元号かどの紀年法を

用いるかは国民の選択に委ねるべきであり、新元号の使用が強制になるようなことがあってはならない」

希望の党・松沢成文代表

「令和の御代が、元号の願い通り人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つようになり、さらに国運の一層の進展と世界の平和、人類福祉の増進を切に希望する」

（敬称は原文のまま）

天皇陛下即位 各党が談話を発表

NHK2019年5月1日 2時23分



天皇陛下の即位にあたり、各党は声明や党首の談話を発表しました。

自民党は、「新元号の令和は万葉集に典拠し人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められている。平和な日本を守り継ぐことを国民に誓い、新しい時代がさらに輝き、希望に満ちたものとなるよう、国政運営のかじ取りをしっかりと進めていく」としています。

立憲民主党の枝野代表は、「令和という時代が、国民にとって幸せを実感できる平和で穏やかな時代となることを祈念する。憲法に定められた象徴天皇制が国民の総意に基づき安定的に継続するために、皇位の安定的継承など重要な課題に真摯（しんし）に向き合う」としています。

国民民主党の玉木代表は、「即位は、国民にわが国へのゆるぎない誇りと未来への希望をもたらす。令和の時代が平和と繁栄の時代となることを願いつつ、国民と皇室を結ぶ敬愛と信頼の絆が、一層深まることに努力を惜しまない」としています。

公明党の山口代表は、「元号に込められた願いである平和が続き、国民が明日への希望とともに、それぞれの個性を輝かせていける新たな時代を開き、わが国と世界の人々の幸福と平和のために、さらなる決意でまい進する」としています。

共産党の志位委員長は、「新天皇の即位に祝意を表す。象徴天皇として、新天皇が日本国憲法の精神を尊重し擁護することを期待する」としています。

日本維新の会の松井代表は、「新しい御代になり、即位礼正殿の儀（そくいらい せいでんのぎ）、大嘗祭（だいじょうさい）、来年の立皇嗣の礼まで、皇位継承の儀式がつつがなく行われ、国民こぞってことほぐことができることを望む」としています。

希望の党の松沢代表は、「令和の御代が、元号の願い通り人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育ち、さらに国運の一層の進展と世界の平和、人類福祉の増進を切に希望する」としています。

社民党の又市党首は、「新天皇は、憲法を遵守し、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たされることを願う。儀式が憲法の理念にかなったものとなるよう求める」としています。

JNN2019年5月1日

即位で各党談話、共産党も「祝意」

新天皇陛下の即位を受け与野党が声明や談話を発表しましたが、党の綱領で天皇制の「存廃」に言及する共産党も、「祝意」を示す異例のコメントを出しています。

自民党は「国政運営の舵取りをしっかりと進めて行く」などの声明を発表し、公明党は日本と世界の人々の「幸福と平和のためにまい進」するとしています。

また、立憲民主党は「皇位の安定的継承」に触れたほか、国民民主党は「天皇と皇室を国民国家の象徴と仰ぐ」などとしています。

一方、共産党は綱領では、天皇制について「個人が世襲で『国民統合』の象徴となる」として、民主主義と両立しないなどと指摘し、「存廃は、将来、情勢が熟したときに、国民の総意によって解決されるべき」としていますが、即位を受けては志位委員長長の「祝意を表します」とのコメントを発表しました。

新天皇陛下の即位にあたり 各党が声明発表

ANN2019/05/01 00:01

新天皇陛下の即位にあたり、自民党をはじめ、与野党の各党が声明や談話を発表しました。

自民党は、党の声明で「新たな時代の幕開けを国民の皆様とともに喜びたい」としています。令和時代の決意として「新しい時代がさらに輝き、希望に満ちたものとなるよう国政運営の舵（かじ）取りをしっかりと進めて行く」と表明しました。

公明党は、山口代表が談話を発表して「それぞれの個性を輝かせていくことができるよう新たな時代を開いていく」と決意を述べています。

立憲民主党は、枝野代表が「平和で穏やかな時代となることを心から祈念する」と令和の時代に思いを寄せ、「幸せを実感できる社会経済、『まっとうな政治』の実現を目指す」という談話を発表しました。

国民民主党は、玉木代表が令和の時代が平和と繁栄の時代となることを願い、「様々な課題について国民の声を聞きながら答えをつくる」との談話を発表しています。

共産党は、志位委員長が談話で新天皇の即位に祝意を示して「象徴天皇として、新天皇が日本国憲法の精神を尊重し、擁護することを期待する」としています。

日本維新の会は「国政と地方の両輪で改革を進めるために大きな役割を果たしていく」との決意を松井代表が談話で発表しています。

天皇陛下退位 自民、立憲民主など4党が談話

毎日新聞 2019年5月1日 00時30分(最終更新 5月1日 00時30分)

自民、立憲民主など4党は30日、前の天皇陛下の退位に伴い談話を発表した。前陛下が象徴天皇としての役割を果たされてきたことを振り返り、与野党とも令和の時代に平和を引き継ぐことを誓った。

◆自民党

平成はまさに激動の時代だった。経済政策「アベノミクス」によって景気回復を迎えるまで経済低迷期が続き、安全保障、経済両面で国家間のパワーバランスは変容した。未曾有の大災害も相次いだ。

このような時代に、前の天皇陛下は常に国民に寄り添ってこられた。被災した国民のもとに足を運び、一人一人を励まされた。

陛下の思いに国民は勇気づけられ、厳しい環境でも希望を持ち、日本を国際社会でひとときわ輝く、素晴らしい国に築き上げることができたと確信する。

自民党は平成の時代と前陛下の記憶をしっかりと心にとどめ、令和の時代がさらに平和で明るく、活力に満ちたものとなるよう国政運営にまい進する。(党声明)

◆立憲民主党

平成の30年間、戦禍を被ることがなかったとはいえ、東日本大震災、阪神大震災などの自然災害が相次いだ。その都度、お互いの力を信じ、一日ずつ未来を築いてきた。

このような日々にあつて、前の天皇陛下は昭和天皇以来、象徴天皇としての有りようを常に模索され、新たなかたちで国民と向き合ってきた。被災地のみならず全国各地に赴き、国民の安寧を祈り続ける姿に国民は大いに勇気づけられた。

前陛下が祈り、国民が築き上げてきた平和な日々が途絶えることのないよう、立憲民主党は責任を果たしていく。(枝野幸男代表談話)

◆公明党

前の天皇陛下は長きにわたり、日本国と日本国民統合の象徴として、前の皇后陛下と一緒に、わが国の平和と繁栄に心を砕いてこられた。筆舌に尽くし得ないご精励に謹んで感謝を申し上げる。

平成は災害が相次いだ30年間だった。多くの自然災害に見舞われたが、前陛下は被災地をお見舞いになり、犠牲者を懇ろに追悼してくださいました。被災者一人一人への心のこもった激励は、勇気と希望になった。さらに前の天皇、皇后両陛下は慰霊の旅を続け、平和への不変の覚悟を行動で示された。

公明党は、前の両陛下が公務を全身全霊で成し遂げられたご意志を尊び、改めてわが国と世界の人々の幸福と平和のためにまい進することを誓う。(山口那津男代表談話)

◆社民党

前の天皇陛下の退位は、衆参両院の正副議長のもと、全ての政党・会派が「国民の総意」をまとめる努力を積み重ねてきた結果であり、感慨深い。

前陛下は30年前、即位に際し「日本国憲法を順守し、象徴としての務めを果たす」と誓った。しかし、前陛下の誓いと裏腹に、相次ぐ違憲立法によって憲法の空洞化が進んだ。

常に国民に寄り添い、象徴天皇の姿を模索してきた前陛下は、沖縄、長崎、広島など戦争にゆかりのある多くの地を訪問し、戦没者を慰霊する旅を続けてこられた。

社民党は戦争の反省に立って、誰もが平和で安心して暮らせる社会を目指す。(又市征治党首コメント)

天皇陛下の譲位にあたり自民、立憲民主、公明各党が談話・声明を発表

産経新聞 2019.4.30 00:23

天皇陛下が30日に「退位礼正殿の儀」に臨まれ、譲位するにあたり、自民、立憲民主、公明各党が発表した声明や談話の主な内容は次の通り。

◇

自民党「内外ともに激動する時代に、天皇陛下は常に国民に寄り添ってこられた。陛下の思いに国民は勇気づけられ、日本を平和で国際社会の中でもひとときを輝く、素晴らしい国に築き上げることができた。自民党は新しい時代でも平成の時代と天皇陛下の記憶をしっかりと心にとどめ、令和の時代がさらに平和で明るく活力に満ちるよう国民とともに国政運営に邁進する」

立憲民主党「天皇陛下のご退位され、『平成』の時代に幕がひかれることとなりました。明るく5月1日、新天皇陛下のご即位され、『令和』の時代が幕を開けます。陛下が祈り、国民が築き上げてきた平和な日々が途絶えることのないよう、立憲民主党は、国民の皆さまから課せられた責任を果たしてまいります」

公明党「天皇陛下はわが国の平和と繁栄に心を砕いてこられた。平成は災害が相次いだ30年間だったが、犠牲になられた人々を懇ろに追悼し、被災者お一人お一人に声をかけられたお心のこもった激励は被災者の勇気となり希望となった。慰霊の旅を続けてこられた平和への不変の覚悟を行動で示された。公明党は天皇陛下のご意志を尊び、わが国と世界の幸福と平和のために邁進する」

天皇陛下譲位 社民・又市党首談話全文「天皇の誓いと裏腹に憲法は空洞化」

産経新聞 2019.4.30 20:06

社民党の又市征治党首は30日、天皇陛下の譲位にあたりコメントを発表した。全文は次の通り（原文のまま）。

◇

本日、天皇の退位等に関する皇室典範特例法に基づき、今上天皇が退位されました。日本国憲法下の生前退位は初めてのことで

す。全国民の代表者からなる立法府が国権の最高機関として、衆参両院の正副議長の下、全ての政党会派による静ひつつ真摯な論議を行い、「国民の総意」をまとめる努力を積み重ねてきた結果であり、感慨深いものがあります。

今上天皇は、30年前、即位に際し、「常に国民の幸福を願いつつ、日本国憲法を遵守し、日本国及び日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすこと」を誓いました。しかしながら、今上天皇の誓いとは裏腹に憲法は、PKO協立法、周辺事態法、有事法制、テロ特措法、イラク特措法、「戦争法」（平和安全法制）などの相次ぐ違憲立法によって、空洞化が進みました。そして今や安倍政権は公然と明文改憲を標榜し、また公文書の隠蔽・改ざん、データねつ造・偽装、虚偽答弁、統計不正など民主主義の根幹が揺るがし、行政や政治の私物化もきわまっています。

また、経済面でもバブル崩壊による「平成不況」で幕開けし、その後もアジア通貨危機、ITバブル崩壊、リーマン・ショック

など大きな経済危機に見舞われ、「失われた10年」をはじめとする長引く不況に襲われました。そうした中、新自由主義的な構造改革路線が強化され、労働者の非正規化がすすみ、格差や貧困が拡大し、社会の二極化、将来不安の増大がもたらされました。

さらに、1991年の雲仙普賢岳の噴火、93年の北海道南西沖地震と奥尻島の津波被害、95年の阪神淡路大震災、2011年の東日本大震災、16年の熊本地震等大きな災厄が相次ぎました。

常に国民に寄り添い、象徴天皇の姿を模索してきた今上天皇は、被災者を一人一人慰問するとともに、「先の戦争のことを十分に知り、考えを深めていくことが日本の将来にとって極めて大切なこと」として、沖縄、長崎、広島をはじめ戦争にゆかりのある多くの地を訪問し、戦没者を慰霊する旅を続けてこられました。

社民党は、これからも戦争の反省にたつて、平和憲法が活かされ、誰もがともに、平和で安心して暮らすことができる社会を目指し、全力を尽くして参ります。

「希望に満ちた新時代に」＝新天皇即位で経済界

時事通信 2019年05月01日00時16分

新天皇陛下の即位にあたり経済3団体トップは祝意を示す談話を5月1日付で発表した。経団連の中西宏明会長は「夢と希望に満ちあふれた『令和』という新時代が築かれていくことを心から願う」と期待感を示した。

日本商工会議所の三村明夫会頭は「平成」を振り返り、「日本は平和な中においても数々の試練に直面した」と指摘。その上で令和について「国家・国民の安泰とますますの繁栄を心より祈念したい」とコメントした。

経済同友会の桜田謙悟代表幹事は「われわれ経営者は日本独自の強みを磨いて、世界に新たな価値を提供していく」とし、令和時代での飛躍を誓った。

きょうから「令和」 経済界のコメント

NHK2019年5月1日0時01分



天皇陛下が新たに即位され、元号が「令和」に改められたことについて、経済界のコメントです。

経団連の中西会長は「デジタル化などの技術革新や大きく変化する国際情勢の中で、誰もが豊かさや幸せを実感できる創造的な経済社会を実現するよう経済界も全力を挙げていく」としています。経済同友会の桜田代表幹事は「令和の時代に日本が再び輝きを取り戻し、国際社会から一層の信頼を得て、さらなる発展を遂げていくことを期待する」としています。

また、日本商工会議所の三村会頭は「『平成』の時代は、世界的なさまざまな変動とともに、日本では数々の試練に直面した時代でもあった。新たな令和の時代を喜びつつ、国家・国民の安泰と繁栄を願う」としています。



皇位継承について報じる韓国紙＝30日、ソウル

【ソウル時事】韓国外務省報道官は30日、文在寅大統領が天皇陛下に送った書簡で「在位期間中、平和の大切さを守っていくことの重要性を強調し、韓日関係発展に大きく寄与したことに謝意を表明した」と明らかにした。さらに、「退位後も、両国関係の発展のために力を注いでいただけるよう期待する」と記したという。

また、李洛淵首相もフェイスブックなどに投稿し、「韓日関係を重視された明仁天皇に感謝いたします」と述べた。「即位される徳仁天皇は昨年3月、ブラジルで行われた（国際会議）世界水フォーラムでお会いし、かなり深い言葉を交わしてください、感謝いたします」とも語った。

その上で、「令和時代、韓日両国が未来を共に準備する新たな友好協力関係を構築することを望みます」と表明した。韓国最高裁が元徴用工らの訴訟で日本企業に賠償を命じる判決を下した問題などで日韓関係が悪化する中、令和時代を契機に関係改善を図りたいという意欲を示した形だ。

「米国代表し、心から感謝」＝天皇退位でトランプ大統領が声明
時事通信 2019年04月30日 12時56分

【ワシントン時事】米ホワイトハウスは29日、天皇陛下の退位を前に「米国民を代表し、天皇、皇后両陛下に心からの感謝の気持ちを表明する」とするトランプ大統領の声明を発表した。

声明でトランプ氏は「平成が終わりに近づき、新たな世代が即位しようとする中で、米国が日本と緊密な関係を築く大きな重要性を認識したい」と表明。天皇が冷戦終結から現在までの在位中に5人の米大統領を日本に迎えたことと紹介し、「日米関係は、当時の世界的な課題を乗り越えるのに極めて重要だった」と指摘した。

また、2017年に訪日し、両陛下と会見したことについて「光栄に思っている」とし、「新しい時代に偉大な同盟国である日本との間で、友好と協力の伝統を続けることを楽しみにしている」と期待感を示した。

ハガティ米大使も祝福＝「両国、美しいハーモニー」－皇位継承
時事通信 2019年04月30日 11時57分



米国のウィリアム・ハガティ駐日大使＝2018年

4月、東京都港区

米国のハガティ駐日大使は30日、5月1日の皇太子さまの新天皇即位に先立ち、英語と日本語で「日本の皆さまと共に令和の

「200年ぶり」と詳報＝英メディア

時事通信 2019年04月30日 18時57分

【ロンドン時事】英BBC放送は30日、日本の皇位継承を「日本の天皇が退位するのは約200年ぶり」と詳報した。また、皇居周辺に大勢の市民が集まった様子を紹介して「(新天皇となる)皇太子はどんな人物か」と経歴を伝えた。

同放送の電子版では天皇退位の関連ニュースが「最も読まれた記事」のトップになった。他のメディアも「明仁天皇、愛のメッセージとともに退位」（ガーディアン紙電子版）などと大きく取り上げた。

米紙、前天皇や皇室を特集 戦争への「深い反省」紹介

2019/5/1 01:14 共同通信社

【ニューヨーク共同】4月30日付の米紙ニューヨーク・タイムズは、前天皇陛下の退位に合わせ、米国人の女性教師から英語を学んだ幼少期や、戦争への「深い反省」を表明し続けたことなど、前陛下のこれまでを振り返りながら、日本の皇室の現状を紹介する3ページの特集を掲載した。

記事は、父の昭和天皇が敗戦を告げるラジオ放送を聞いて前陛下が涙をぬぐったと記載。戦後間もない時期には、女性教師から「ジミー」と呼ばれながら英語の授業を受けたことも盛り込んだ。沖縄県やアジア諸国を訪問し、戦争での日本軍の犠牲者に謝罪を続けて「日本の右派をいら立たせた」と指摘した。

天皇陛下きょう退位 ニューヨーク・タイムズが皇室特集掲載

NHK2019年4月30日 20時50分

天皇陛下の退位にあわせて、アメリカの有力紙ニューヨーク・タイムズの電子版は、戦後の日本の皇室について、5回にわたる特集を日本語で掲載しました。

記事は東京支局のモトコ・リッチ支局長が執筆したもので、この中で、天皇陛下が終戦のよくとし、12歳の時、アメリカ人の女性教師から「ジミー」という平凡な名前と呼ばれたエピソードを紹介しています。

そのうえで、この教師が英語教育を通じて、アメリカの民主主義的な思考に導く考えを持っていたことに触れ、「明仁は、日本を再形成するにあたって、アメリカが意図する価値を伝えるパイプ役として育成される」と記しています。

また、天皇陛下が即位後に、先の大戦で激戦地となったアジア各国を訪問したことについては、「彼の平和主義のメッセージは、日本が海外からの評価を取り戻す助けになった」とする一方で、日本国内では意見が分かれ、「日本軍の行動を最小化しようとし、『謝罪の旅』に冷ややかな目を向け、日本はすでに十分に謝罪したと論じる右派もいた」と指摘しています。

そのうえで、天皇陛下について「日本の極右に対する抑止力になっている。数十年にわたり、君主制を日本の軍国主義回帰に対する防波堤へと静かに再構築してきた」と記しています。

文大統領、天皇陛下に謝意＝関係改善に期待－韓国

幕開けを迎えます。日米不朽のパートナーシップがこれからも美しいハーモニーで続くでしょう」とツイートした。

ロシア大統領、天皇陛下に謝意＝皇位継承

時事通信 2019年04月30日18時47分

【モスクワ時事】ロシアのプーチン大統領は30日、天皇陛下に電報を送り「ひととき発展したロシアと日本の関係に関心を注がれたことに感謝したい」と伝えた。ロシア大統領府が発表した。

プーチン氏は両国関係の一層の発展に期待を表明。天皇陛下の健康を祈念した。

中国、陛下の功績称賛＝「訪中した唯一の天皇」－皇位継承

時事通信 2019年04月30日14時36分



中国を訪問された天皇陛下（手前右）と皇后美智子さま（同左）＝1992年10月、北京近郊（AFP時事）

【北京時事】中国では30日、天皇陛下の退位に当たり、「訪中した唯一の天皇」（政府系ニュースサイト「中国網」）の功績や人柄を称賛するムードが広がった。陛下が好きな言葉として論語の「忠恕（ちゅうじょ＝誠実で思いやりのあること）」を挙げたことを評価する声も聞かれた。

中国網は、1992年の天皇陛下の訪中について「中日関係改善に極めて重要な役割を果たした」とたたえた。同サイトは陛下が国民に分かりやすい言葉遣いを心掛けたことなどに言及し、「本当の意味での『平民天皇』と表現した。

また、30日付の共産党機関紙・人民日報系の環球時報は、天皇陛下の退位に関する日本専門家の解説記事を掲載。陛下が皇室外交や災害被災地の慰問などに精力的に取り組んだことに対して、「国内外の影響力を積極的に拡大した」と論評した。

日本史をテーマとして活動するノンフィクション作家の蕭西之水さんは、陛下が過去の記者会見で「忠恕」に触れたことについて、「中国の古典を愛する中国人として、陛下に共感と敬意を抱いてきた」と語った。陛下が満州事変以降の歴史を学ぶ重要性を指摘したことにも「感銘を受けた」という。

即位巡る儀式「政教分離に違反」キリスト教団体が会見

朝日新聞デジタル編集委員・北野隆一 2019年4月30日19時54分



天皇代替わり儀式に抗議し記者会見するキリスト教団体関係者＝2019年4月30日午後4

時51分、東京都新宿区、北野隆一撮影

プロテスタントやカトリックなど国内のキリスト教の教団や教派団体が30日、東京都新宿区で記者会見し、天皇代替わりの一連の儀式を国事行為・公的行事として行うことは「憲法上、国民権の基本原則や政教分離原則に違反し、国家神道の復活につながる」と主張した。

各団体は、5月1日にある「剣璽（けんじ）等承継の儀」は神道神話に基づく神器を引き継ぐ儀式と指摘。10月の「即位礼正殿の儀」で新天皇が「高御座（たかみくら）」に立つことは、天孫降臨神話に基づき天皇が生き神の性格を帯びる意味を持つと述べ、両儀式が国事行為として行われることは「政教分離原則に違反する」と主張した。

1月に新天皇が臨む大嘗祭（たいじょうさい）についても、「皇室の私的宗教行事」だとし、国費の支出に異議を唱えた。（編集委員・北野隆一）

令和幕開け＝天皇陛下退位「国民に感謝」－皇太子さま即位

時事通信 2019年05月01日00時42分



「退位礼正殿の儀」でお言葉を述べられる天皇陛下＝30日午後5時7分、皇居・宮殿「松の間」

天皇陛下は4月30日、退位された。皇太子徳仁（なるひと）親王殿下が1日午前0時に新天皇に即位し、元号が平成から令和に改まった。陛下は30日午後5時から、国民に広く退位を知らせる儀式「退位礼正殿の儀」に臨み、30年余りの在位について「象徴としての私を受け入れ、支えてくれた国民に、心から感謝します」と最後のお言葉を述べられた。

儀式は皇居・宮殿「松の間」で、憲法が規定する国事行為として実施。陛下は「天皇としての務めを終えることになりました」と冒頭に述べ、「天皇としての務めを、国民への深い信頼と敬愛をもって行い得たことは、幸せなことでした」と振り返った。

お言葉に先立ち、安倍晋三首相が国民代表の辞を述べ、皇室典範特例法に基づき陛下が退位することを説明。自然災害の際に現地を訪れ、被災者らを励ましてこられた姿に触れた上で、「いかなる時も国民と苦楽を共にされた天皇陛下のみ心に思いを致し、深い敬愛と感謝の念をいま一度新たにすると謝意を伝えた。

成年皇族方のほか、政府、国会、裁判所、地方自治体の要人ら約300人が参列した。



「退位礼正殿の儀」に臨まれる皇太子ご夫妻＝30日午後5時1分、皇居・宮殿「松の間」

陛下は85歳。2016年8月のビデオメッセージで高齢を理由に退位の意向をにじませた。政府の有識者会議や与野党の意見を踏まえ、陛下一代に限り退位を認める特例法が成立した。天皇退位は、江戸時代後期の光格天皇以来202年ぶり。

新天皇は宮内庁の記録によると126代目。現行憲法が定める象徴天皇としては3代目となる。

元号を令和に改める政令は1日に施行。248番目の元号として、政府が4月1日に決定した。典拠は現存する日本最古の歌集「万葉集」で、日本で記された国書に由来する元号は初めて。

代替わりに伴い、皇太子妃の雅子さまが新皇后となった。皇位継承順位は、皇嗣になった秋篠宮さまが1位、秋篠宮さま長男の悠仁さまが2位。天皇、皇后両陛下は上皇、上皇后となった。

即位に関する国事行為として、1日午前10時半から「剣璽等承継の儀」が皇居で行われ、新天皇が皇位の証しとされる剣や勾玉（まがたま）などを受け継ぐ。同日午前11時10分からは国民の代表と会う「即位後朝見の儀」があり、新天皇が初めてお言葉を述べる。

新天皇陛下がお言葉＝国民代表前に＝皇居で承継の儀と朝見の儀・皇位継承

時事通信 2019年05月01日04時36分

新天皇陛下の即位に伴う「剣璽（けんじ）等承継の儀」が1日午前、天皇の国事行為として、皇居・宮殿「松の間」で行われる。引き続き、即位後初めて国民代表に会われる「即位後朝見（ちょうけん）の儀」も国事行為として行われる。

剣璽等承継の儀には、皇位継承順位1位の皇嗣の秋篠宮さま、同3位の常陸宮さまに加え、三権の長や閣僚ら26人が参列予定。午前10時半、えんぴつに勲章を付けた新陛下が松の間に入室し、秋篠宮さま、常陸宮さまが後に続く。

皇位の証しとされる剣と璽＝勾玉（まがたま）＝、天皇の印の御璽、国の印の国璽をささげ持った侍従が入室。それらを新陛下の前の「案」と呼ばれる台の上に置き、皇位継承を明らかにする。その後、新陛下は再び剣と璽などをささげ持った侍従と共に退出する。剣と璽は今後、新陛下のそばに置かれる。

午前11時10分からの即位後朝見の儀には新皇后さま、秋篠宮ご夫妻ら成年皇族方に加え、三権の長や閣僚、都道府県知事や市町村長の代表ら約300人が参列。新陛下がお言葉を述べた後、安倍晋三首相が国民代表の辞を述べる。

新陛下は午前中から、宮殿で二つの儀式を国の儀式として行うことなどを定めた臨時閣議決定を裁可し、天皇としての公務を開始。菅義偉官房長官との面会、新侍従長らの認証式にも臨む。

新天皇、皇后両陛下はその後、いったん赤坂御所に戻り、午後、上皇ご夫妻らへのあいさつのため、皇居を訪れる。

剣璽等承継の儀の参列者は前例を踏襲し、皇族は皇位継承権を持つ成年男性に限定。片山さつき地方創生担当相は女性として憲政史上初となる。同儀式とほぼ同時刻には、皇居・宮中三殿で、皇室行事の「賢所の儀」と「皇霊殿神殿に奉告の儀」が行われ、新陛下に代わって掌典長が即位を告げる「御告文（おつげぶみ）」を読む。

陛下「令和の平和祈る」＝在位中最後のお言葉＝皇居で退位礼正殿の儀

時事通信 2019年05月01日00時13分



「退位礼正殿の儀」でお言葉を述べられる天皇

陛下と、皇太子さま＝30日午後5時8分、皇居・宮殿「松の間」

天皇陛下の退位に伴う「退位礼正殿の儀」が30日夕、皇居・宮殿「松の間」で行われた。30年3カ月余り象徴として歩んだ陛下は「新しい令和の時代が、平和で実り多くあることを、皇后と共に心から願い、我が国と世界の人々の安寧と幸せを祈ります」と、在位中最後のお言葉を述べられた。

江戸時代後期の光格天皇以来、202年ぶりの退位に伴う憲政史上初の儀式で、国民に広く退位を知らせるため憲法が定める天皇の国事行為として実施。皇后さまや皇太子ご夫妻ら成年皇族15人全員に加え、閣僚や衆参正副議長、最高裁長官、国会議員、都道府県知事や市町村長の代表ら294人が参列した。

午後5時、モーニング姿の天皇陛下が皇后さまと共に松の間に入室した後、侍従が皇位の証しとされる剣と璽（じ）＝勾玉（まがたま）＝、天皇の印の御璽、国の印の国璽を「案」と呼ばれる台の上に置いた。

安倍晋三首相が退位特例法に基づき、30日限りでの陛下の退位を宣言。即位以来、国民と苦楽を共にした陛下への謝意を表した。陛下は「天皇としての務めを、国民への深い信頼と敬愛をもって行い得たことは、幸せなことでした」と述べ、国民への感謝を示した。



「退位礼正殿の儀」に臨まれる天皇、皇后両陛下の前に、三種の神器の剣と璽などが置かれた＝30日午後5時1分、皇居・宮殿「松の間」（代表撮影）

両陛下は剣と璽をささげ持った侍従と共に退出し、儀式は10分余りで終わった。

両陛下は引き続き、皇族や側近、宮内庁や皇宮警察の職員らからあいさつを受けた後、お住まいの御所で平成最後の一日を終えた。

これに先立ち、陛下は30日午前、皇居・宮中三殿で、「退位礼当日賢所大前（かしこどころおおまえ）の儀」などの儀式に装束姿で臨んだ。

剣と璽は退位礼正殿の儀の後、皇居・御所「剣璽の間」に再び戻され、1日午前0時の即位とともに新天皇が継承した。

1日午前、新天皇が剣と璽などを受け継いだことを明らかにする「剣璽等承継の儀」と、即位後初めて国民代表に会う「即位後朝見の儀」が、いずれも国事行為として行われる。

天皇陛下のお言葉全文

時事通信 2019年04月30日17時16分



「退位礼正殿の儀」でお言葉を述べられる

天皇陛下=30日午後5時8分、皇居・宮殿「松の間」(代表撮影)

天皇陛下が退位礼正殿の儀で述べられた最後のお言葉は次の通り。

今日(こんにち)をもち、天皇としての務めを終えることになりました。

ただ今、国民を代表して、安倍内閣総理大臣の述べられた言葉に、深く謝意を表します。

即位から三十年、これまでの天皇としての務めを、国民への深い信頼と敬愛をもって行い得たことは、幸せなことでした。象徴としての私を受け入れ、支えてくれた国民に、心から感謝します。

明日(あす)から始まる新しい令和の時代が、平和で実り多くあることを、皇后と共に心から願い、ここに我が国と世界の人々の安寧と幸せを祈ります。

平成の締めくくり、厳粛に＝穏やかな表情、新時代へ祈りー「退位礼正殿の儀」・皇居

時事通信 2019年04月30日19時17分



「退位礼正殿の儀」でお言葉を述べられる

天皇陛下=30日午後5時8分、皇居・宮殿「松の間」(代表撮影)

憲政史上初めて行われた「退位礼正殿の儀」。在位中最後の儀式に、天皇陛下は普段通りの穏やかな表情で臨まれた。傍らに立つ皇后さまや、皇太子ご夫妻ら皇族方、そして国民の代表が見守る中、平成を締めくくる儀式が厳粛に執り行われた。

儀式の舞台となったのは、皇居・宮殿の中で最も格式が高い「松の間」。陛下の「即位礼正殿の儀」など数々の重要な行事が行われてきた部屋で、宮中で唯一、床がケヤキの板張りになっている。

モーニング姿の天皇陛下は午後5時、白いロングドレス姿の皇后さまと共に入室。宮内庁の山本信一郎長官と秋元義孝式部官長が先導し、剣璽と御璽、国璽をささげ持つ侍従らが後に続いた。



「退位礼正殿の儀」に臨み、退室される天皇陛下=

30日午後5時12分、皇居・宮殿「松の間」

侍従らの靴音がカツンカツンと高く響き、やがて剣璽などの安置が終わって静まると、室内はひととき厳粛な雰囲気。安倍晋三首相が進み出て、国民代表の辞を読み上げた。

続いて、天皇陛下は河相周夫侍従長から受け取った原稿を開き、ゆっくりとした口調で最後のお言葉を述べた。間際まで推敲(すいこう)を重ねたというお言葉は、国民への謝意と共に、令和の時代が平和で実り多くあるよう願う内容。「皇后と共に」との表現に、陛下の思いがにじんだ。

お言葉が終わると、侍従らが剣璽などを再びささげ持ち一礼。陛下は壇上から降りた際、いつものように皇后さまの手を取り、足元を気遣った。

陛下は最後に扉の前で振り返り、深々と頭を下げて見送っていた皇后さまを見詰めた後、ゆっくりと会場に一礼。剣璽などと共に松の間を後にした。平成最後の日の午後5時14分。皇族方の退出と共に扉が閉まり、退位礼正殿の儀は終わった。

前の天皇、皇后両陛下 紡ぐ言葉、平和への思い(1) 後世に正しく伝える

毎日新聞 2019年5月1日00時15分(最終更新 5月1日01時17分)



85歳の誕生日を前に、記者会見をされる

前の天皇陛下=皇居・宮殿「石橋の間」で2018年12月20日、代表撮影

前の天皇、皇后両陛下は平成の時代、国内外のかつての戦地を巡られた。戦没者を悼み、平和を祈る慰霊の旅を続け、戦争の記憶を次世代へ受け継ぐ大切さを行動で示してきた。

沖縄の慰霊の日(6月23日)、広島と長崎の原爆の日(8月6、9日)、終戦の日(8月15日)を「記憶しておかなくてはならない日」とし、毎年欠かさず祈りをささげる。平和を希求し続けるお二人が紡いだ言葉を振り返る。

沖縄の犠牲に心を寄せ

「戦後の平和と繁栄が、多くの犠牲と国民のたゆみない努力によって築かれたものであることを忘れず、戦後生まれの人々にもこのことを正しく伝えていくことが大切であると思ってきました。平成が戦争のない時代として終わろうとしていることに、心から安堵(あんど)しています(2018年、85歳を迎える誕生日の記者会見)」

前の天皇陛下はほぼ毎年、誕生日に合わせて宮内記者会との記者会見に臨んだ。

天皇として最後の会見だった18年は「国民に伝えたいこと」を問われた。声は時折ふるえ、こみあげる思いをこらえきれないようだった。「沖縄の人々が耐え続けた犠牲に心を寄せていくとの私どもの思いは、これからも変わることはありません」とも発言。住民を巻き込む地上戦や米軍統治を含む沖縄の歴史と今後も

向き合い続ける決意を示した。



フィリピンで戦没者の碑に供花される前の天皇、皇后両陛下＝ラグナ州カリラヤで2016年1月29日（代表撮影）

「中国国民に多大の苦難与えた」

「我が国が中国国民に対し多大の苦難を与えた不幸な一時期がありました。これは私の深く悲しみとするところであります。我が国民は、このような戦争を再び繰り返してはならないとの深い反省にたち、平和国家としての道を歩むことを固く決意して、国の再建に取り組みました（1992年、中国訪問時の夕食会）」

前の陛下は、外国訪問時や外国要人を迎えた際、両国の歴史を踏まえて友好の深まりを願うあいさつをしてきた。

日中国交正常化20周年の92年、歴代天皇として初めての中国訪問が実現。北京の人民大会堂で、楊尚昆国家主席（当時）主催の夕食会に出席した。中国には反日感情が根強く残り、両国の緊張関係が続く中、日本国内にも訪中への慎重論がくすぶっていた。あいさつを終えると、楊主席は「あたたかいお言葉をありがとうございます」と伝えたという。

「言論の自由」かみしめ



楊尚昆主席主催の夕食会でおことばを述べら

れる前の天皇陛下＝中国・北京の人民大会堂で1992年10月23日、代表撮影

「自分の思うことを自由に感想文として書ける今日の社会に生きている幸福をかみしめていただきたいと思います。このような感想文は、平和で、言論の自由が認められている社会において初めて書けるものです（1982年、第27回青少年読書感想文全国コンクール表彰式）」

前の陛下は皇太子時代、小中高生が参加する青少年読書感想文全国コンクールの表彰式に出席するのが恒例だった。入賞作品を読んで、式に臨んでいたという。

82年のあいさつでは「言論の自由という言葉は、戦争が終わった年に初めて聞きました」と明かし、子供たちに「自由で平和な今日の社会をさらに心豊かなものにするよう心掛けていくことが大切」と語りかけた。

前の天皇、皇后両陛下 紡ぐ言葉、平和への思い（2） 憎しみの本質理解を

毎日新聞 2019年5月1日 00時15分(最終更新 5月1日 01時17分)



慰霊のために訪問された米自治領サイパン島砂浜で、元日本兵から話を聞く前の天皇、皇后両陛下＝サイパン島で2005年6月、代表撮影

「長い歴史を負って現代を生きる私ども一人一人は、今を平和に生きる努力とともに、過去が残したさまざまな憎しみの本質を理解し、これを暴力や戦争に至らしめぬ努力を重ねていかなければならないと思います（1995年、国際大学婦人連盟主催の国際会議開会式）」

女性の地位向上や人権問題などを議論する国際会議が95年に横浜市で開かれ、前の皇后美智子さまは開会式に出席した。皇后単独の公務だった。

あいさつは英語で、「平和への道のりの難（かた）さを、絶望や虚無感に至らせることなく、喜ぶべき進歩を喜び、各地、各国の良き報（しら）せを分かちあって、心を励ましていくことも大切」とも述べた。戦後50年にあたる年で、紛争が続く世界情勢を念頭にした内容だった。レセプションにも出席し、各国からの参加者と交流した。

核兵器の非人道性に目を

「日本の被爆者の心が、決して戦いの連鎖を作る『報復』ではなく、常に将来の平和の希求へと向けられてきたことに、世界の目が注がれることを願っています（2017年、83歳の誕生日に合わせた文書回答）」

美智子さまは10月20日の誕生日に合わせ、1年を振り返る文書を公表するのが恒例だった。

17年は、国際NGO「核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）」のノーベル平和賞受賞に言及した。「日本の立場は複雑」と前置きし「長いながい年月にわたる広島、長崎の被爆者たちの努力により、核兵器の非人道性、恐るべき結果等により世界が目向けられたことには大きな意義があった」と記した。核兵器禁止条約を批准しない政府がICANと距離を取る中、平和のために活動する人々をたたえた。

連載「考・皇室」を振り返る 退位の「お気持ち」国民が共感 政府は法との整合性腐心

毎日新聞 2019年5月1日 00時30分(最終更新 5月1日 01時21分)



雲仙・普賢岳の火砕流の被災者に見舞いの言葉をかけられる前の天皇、皇后両陛下＝長崎県島原市の島原第1小学校で 1991年7月10日、関口純撮影

毎日新聞は前の天皇陛下が 2016 年 8 月に退位の意向がにじむおことばを公表されたことを受け、同年 10 月から 17 年 6 月まで連続企画「考・皇室」を掲載した。政治部副部長（当時）として企画を取りまとめた毎日新聞「政治プレミア」の須藤孝編集長が取材班による連載を振り返った。

2016 年 10 月 17～22 日「私の意見」（全 5 回） 専門家から指摘次々

インタビューしたのは、日本政治外交史専攻で、宮内庁参与も務めた三谷太郎・東京大名誉教授や、平成への改元の際に内閣内政審議室長として関わった的場順三・元内閣官房副長官ら 5 人。

前の陛下の意向表明から間もない時期。政府の具体的な対応は定まっておらず、各界の受け止めもさまざまだった。象徴天皇制のあり方や皇室典範を改正するかなど、その後の主な論点のいくつかが示された。

三谷氏は前の陛下が行動によって象徴としての務めを積極的に果たそうとしてきたことを指摘した。

16 年 11 月 23～25 日「平成流の原点」（全 3 回） 国民との交流重視

前の陛下は大戦の激戦地を訪れる慰霊の旅や被災地訪問を重ね、平成の天皇のあり方を行動で示した。昭和天皇を引き継いだ部分もあれば、新たに作り出した部分もある。現在の象徴天皇制が形作られた経緯を、雲仙・普賢岳の火砕流の被災地訪問で被災者の前でひざをついたエピソードなどを交えて描いた。

昭和天皇は敗戦直後、積極的に民衆のなかに入っていた時期がある。「地方巡幸」で群衆に取り囲まれ、帽子を取って語り合う写真が残されている。「現人神（あらひとがみ）」だった戦前の印象から脱却し、戦災で苦しんだ国民を慰める意味があった。しかし、戦後の混乱が去るにつれ、再び天皇は国民から遠ざかる。式典などでおことばを述べることはあっても、肉声は次第に伝わらなくなっていく。

一方、前の陛下は国民との交流や対話を重視してきた。被災地でひざをつく様子などには、保守派の一部から「天皇の権威を損なう」という意見も出た。天皇は国民個々人の思いを反映する存在ではなく、仰ぎ見る手本であるべきだという考え方だ。しかし、退位の意向がにじむおことばからは、象徴としての務めは天皇の役割の核心であり、「全身全霊で」果たすことができなければ天皇であり続けることはできないという思いがみてとれた。

16 年 12 月 24 日～17 年 1 月 9 日「憲法と歩む」（全 10 回） 制定 130 年、初の退位

近代天皇制の基礎は 1889 年に定められた日本初の憲法である大日本帝国憲法（明治憲法）で固められた。明治憲法制定を主導した伊藤博文は、条文を検討する際、明治維新の原動力の一つでもあった天皇の強い影響力をどのようにコントロールするか細心の注意をはらった。

天皇の意向によって可能だった退位を認めず終身制としたのもその一環だ。伊藤は近代国家を建設するためには、天皇であろうとも制度を超えた個人の意思によって国策が左右されることに歯止めが必要だと考えた。

日本国憲法は天皇に政治的権能はないことを明記する。しかし、

天皇が意思を公にした場合、政府が異なる決定をすることは容易ではない。前の陛下のおことばを受けて、政府が慎重な姿勢を取らざるを得なかったのはこのためだ。政治的な影響がある事柄が天皇個人の意向によって実現すると受け取られれば、違憲の疑いも生じる。



宮殿で執務される前の天皇陛下＝2013

年 11 月 8 日、宮内庁提供

このため退位の特例法は第 1 条で、国民が前の陛下のお気持ちを理解し、共感しているとした。お気持ちによって直接法律を作るのではなく、「共感した国民の意思」によって立法するというワンクッションを置く苦心の論理だ。

有識者ヒアリングでは、退位が制度化されると憲法にない天皇のあり方や影響力が拡大することへの懸念も出た。特例法による退位は、恒久法よりは政府側がイニシアチブを握りやすいといえる。

天皇や皇族の身分は憲法や皇室典範で定められ、皇太子や皇太孫の皇籍離脱は認められない。公私の活動にも制約がある。高齢化が進むなか、退職後の第二の人生をどのように生きるかは多くの人の身近な問題だ。お気持ちの表明による問いかけによって終身天皇制の不自然さに気づかされた国民は多い。

国民が前の陛下のお気持ちに共感したのは、「そろそろお休みいただいてもいいのではないか」と思った側面があったと考えられる。天皇もまた一人の人間であるという当然のことを考えることは、第 1 章を「天皇」とする日本国憲法を考えることにもつながる。

17 年 1 月 25、26 日「論点の行方」（全 2 回） 鍵握る保守派勢力

有識者会議が行った専門家のヒアリングでは、退位に反対意見を述べた保守系学者の人選に安倍晋三首相の意向が働いていた。首相の支持層である保守層には退位への根強い反対があった。

保守層は天皇という伝統そのものを重視する。このため、今回の退位が実現すると、皇位継承の安定性が揺らぐ危険性があるという見方があった。

ただ政権にはお気持ちが公になった退位を実現しないという選択肢は事実上なかった。このため、有識者会議のヒアリングという機会に保守系学者に主張をってもらうことで、保守層にも退位を納得してもらう意味があった。

17 年 4 月 7～15 日「課題検証」（全 5 回） 安定継承など多岐

明治以来、代替わりと改元の時期は天皇の逝去によって決まり、政府に選択の余地はなかった。ところが国民主権の社会で退位が実現することで初めて政府が決めることができるようになった。このため、国民生活への影響をはじめ、これまで検討されていなかったことを事前に決めなければならなくなった。

新しい天皇陛下が即位されると皇位継承の問題もクローズアップされる。新陛下と秋篠宮さまより若い皇位継承資格者は悠仁

さま1人しかいないためだ。

現在の制度では女性皇族は結婚すると皇室を離れる。このため皇族数は減少しても、公務は容易には減らないため、皇族1人あたりの負担が重くなることが懸念されている。



「天皇の公務の負担軽減等に関する有識者会議」の初会合で安倍晋三首相（左端）のあいさつを聞く座長の今井敬経団連名誉会長（左から2人目）ら＝首相官邸で2016年10月17日、丸山博撮影

前の陛下は被災地訪問など積極的な活動に努め、国民と深く交流してきた。退位後も事実上象徴としての権威を持つ「象徴の二元化」が起きるのではないかという懸念も議論になった。こうした懸念は、上皇となる前陛下の行動にかかっていたため、政府も明確な基準を持ってないでいた。秋篠宮さまは皇太子と同じ待遇の皇嗣となる。憲政史上前例がなく、検討すべき項目は多いとの指摘があった。

17年5月21日～6月5日「社会を映す」（全10回） ご結婚に希望見る

高度成長に入る直前の1959年、前の天皇、皇后両陛下の結婚で「ミッチーブーム」が全国で起きた。多くの国民に強い印象を与えたのは、これからの社会が目指す姿を示していると感じられたためだった。

当時、多くの国民が親族を戦争で失っていた。昭和天皇のイメージは戦争中の苦しさとも結びついてきた。戦争の過去と直接的には関わりのない前の天皇ご夫妻は将来の社会の明るさを象徴しているようだった。

56年度版の経済白書が「もはや戦後ではない」としてから約3年。テニスコートでの出会いをきっかけに結婚した生活は、これまでの時代とは異なる未来を国民に感じさせた。「皇太子ご一家」の姿は細部まで報じられ、高度成長期の日本の家族のモデルの一つとなった。子どもを育てながら、「嫁入り」先の風習に直面する「皇太子妃」は、多くの女性が自らを重ね合わせるができる姿でもあった。

昭和天皇が「上御一人（かみごいちにん）（天皇の尊称）」であった戦前から無二の存在として天皇であり続けたのに対し、前の陛下は美智子さまと共に天皇のあり方を模索してきた。国民はその姿に共感した。

安倍晋三首相の国民代表の辞・全文＝皇位継承

時事通信 2019年04月30日 17時14分



「退位礼正殿の儀」で天皇陛下に謝意を伝える安倍晋三首相＝30日午後5時5分、皇居・宮殿「松の間」

謹んで申し上げます。

天皇陛下におかれましては、皇室典範特例法の定めるところにより、本日をおもちましてご退位されます。

平成の30年、「内平らかに外成る」との思いの下、私たちは天皇陛下と共に歩みを進めてまいりました。この間、天皇陛下は、国の安寧と国民の幸せを願われ、一つ一つのご公務を、心を込めてお務めになり、日本国および日本国民統合の象徴としての責務を果たしてこられました。

わが国は、平和と繁栄を享受する一方で、相次ぐ大きな自然災害など、幾多の困難にも直面しました。そのようなとき、天皇陛下は、皇后陛下とご一緒に、国民に寄り添い、被災者の身近で励まされ、国民にあすへの勇気と希望を与えてくださいました。

本日ここにご退位の日を迎え、これまでの年月（としつき）を顧み、いかなるときも国民と苦楽を共にされた天皇陛下のみ心に思いを致し、深い敬愛と感謝の念をいま一度新たにす次第であります。

私たちは、これまでの天皇陛下の歩みを胸に刻みながら、平和で、希望に満ちあふれ、誇りある日本の輝かしい未来を創り上げていくため、さらに最善の努力を尽くしてまいります。

天皇皇后両陛下には、末永くお健やかであらせられますことを願ってやみません。

ここに、天皇皇后両陛下に心からの感謝を申し上げ、皇室の一層のご繁栄をお祈り申し上げます。

天皇退位「先例なり得る」＝菅官房長官

時事通信 2019年04月30日 16時37分

菅義偉官房長官は30日の記者会見で、天皇陛下の退位について「先例になり得る」と述べ、国会が将来、高齢などを理由に時の天皇の退位を認める可能性に改めて言及した。菅長官は2017年6月、陛下の退位を実現する特例法の国会審議でも同様の認識を示している。

天皇退位を恒久制度化しなかった理由に関しては「（17年3月の）衆参正副議長の議論の取りまとめでは、国会がその都度事情を勘案し、退位の是非に関する国民の受け止め方を踏まえて判断するとされている」と述べた。

「お元気に人生楽しんで」＝天皇陛下に感謝－対馬丸記念会理事長・沖繩

時事通信 2019年04月30日 13時03分



取材に応じる対馬丸記念会の高良政勝理事長。後ろは天皇陛下が詠まれた和歌＝13日、那覇市の対馬丸記念館

天皇、皇后両陛下は、太平洋戦争で多くの民間人が犠牲となった沖繩に心を寄せ続けられた。特に同世代の児童が多く亡くなった学童疎開船「対馬丸」撃沈事件には強い関心を持ち、5年前に

は沖縄での慰霊を実現させた。生存者で対馬丸記念会理事長の高良政勝さん（78）は「これからは一人の人間として、皇后さまとお元気に人生を楽しんでいただきたい」と願う。

対馬丸は1944年8月、那覇港を出航後に米潜水艦の魚雷で撃沈され、学童を含む1400人以上が亡くなった。両陛下は10回目となる2014年6月の沖縄訪問で慰霊碑に供花し、対馬丸記念館で生存者や遺族と懇談した。

戦争体験もあり、もともとは天皇という存在に複雑な感情を抱いていたという高良さん。気持ちを大きく変えたのが、沈没していた対馬丸が発見された時に天皇陛下が詠んだ和歌だった。

「疎開児の命いだきて沈みたる船深海に見出だされけり」

16～17年前、沖縄問題への関心が深かった故橋本龍太郎元首相の事務所に掲げられていたこの和歌を見て、初めて陛下の対馬丸への思いの深さを知った。その後は陛下への考えが180度変わり、尊敬の念を抱くようになったという。

「沖縄には何回行っても足りないという気持ちだったのでは。（退位後は）慰問とかではなく、気兼ねなく沖縄に来てくれればと思う」

即位する皇太子さまにも2月の宮中茶会で「ぜひ記念館においでください」と伝えたところ、「はい」とにこやかに返事があったという。「陛下の志は十分お分かりのはずなので、また新しく国民に親しまれる両陛下になってほしい。平成と同じように、令和も戦争のない時代になれば」と期待を込めた。

上皇ご夫妻に感謝の言葉あふれる、被災地・被爆地・沖縄

日経新聞 2019/5/1 1:00

地震や水害などの被災地への訪問や戦争犠牲者が眠る地への慰霊の旅——。上皇さまは30年余りに及ぶ在位中、上皇后さまとともに精力的に各地を訪ね、象徴天皇として国民の悲しみに寄り添われた。「どんなに救われたか」「本当にお疲れさまでした」。ご高齢になられてからも強い気持ちで国民と向き合い続けたお二人に、交流のあった人々からは感謝の言葉があふれた。

●東北被災地

「上皇ご夫妻がどん底から救ってくださった」。東日本大震災で被災した岩手県大槌町のホテルを再建した千代川茂さん（67）は今年3月、テラスに石碑を建てた。「平成の架け橋」と名付け、以前宿泊されたご夫妻への感謝と震災犠牲者の鎮魂の思いを託した。



千代川さんは震災犠牲者への鎮魂と上皇ご夫妻への感謝を込めて碑を建てた（29日、岩手県大槌町）

ご夫妻は1997年秋、三陸海岸沿いに立つホテルを訪れ、岩場に咲くハマギクを觀賞された。それから14年後の2011年3月、津波がホテルを襲った。社長だった兄の山崎龍太郎さん（当時63）を失い、多額の債務とがれきと化した建屋を前に、千代川さんは廃業も考えたという。

しかし、震災から半年後に宮内庁が公開した写真を見て前を向く

決意をした。ご夫妻と皇居に咲く花が写っていた。亡くなった兄が献上したハマギクの種が時を経て真っ白な美しい花を咲かせていた。「花言葉は『逆境に立ち向かう』。兄のメッセージをご夫妻が見つないでくださった」

13年に「三陸花ホテルはまぎく」と改名し営業を再開したホテルを、ご夫妻は16年に再び訪問された。「頑張りましたね」。上皇后さまの言葉に涙がこみ上げた。今年3月には三陸鉄道「リアス線」が開通し例年の倍の客でにぎわう。千代川さんは「町は変わり平成が過去になっても、ご夫妻が寄り添われた被災地の記憶をハマギクとともにつないでいく」と誓う。

東京電力福島第1原子力発電所事故で、福島県いわき市で避難生活続ける田子島屋邦子さん（63）は18年、同市を訪れた上皇さまから「どういうところが一番苦労されましたか」と尋ねられた。

看護師として勤務していた特別養護老人ホームの入居者の避難や仮設住宅の見回り活動などを説明した。「ご多忙でお疲れのはずなのに、一つ一つのことに耳を傾けてくださり、心から励まされた」。故郷の大熊町に帰還する見通しは立っていないが、田子島屋さんは令和になっても前を向いて生きていくことがご夫妻との「約束」だと考えている。

●被爆地

上皇さまは在位中、戦没者の慰霊を天皇の重要な役割の一つと位置づけられた。戦後50年の1995年には長崎、広島、沖縄を訪れ、被爆者らと言葉を交わされた。



上皇ご夫妻が訪問した時の写真を手に話す

村田さん（4月22日、広島市）

上皇ご夫妻は2014年12月、広島市安芸区原爆養護ホーム「矢野おりづる園」を訪問された。案内役を務めた同園参事の村田伸夫さん（69）は「戦争の被害者である市民に親身に寄り添う姿は30年間一貫されていた。退位にはさみしさもあるが、広島への思いは今後もお変わらないはずだ」と語る。

ご夫妻は面会した入所者10人に「体調はどうですか」「被爆の影響は」などと話しかけられた。上皇さまは腰をかがめて入所者に顔を近づけ、上皇后さまは膝をついて目線を合わせ、ゆっくりとうなずきながら話を聞かれたという。

入所者約100人の平均年齢は90歳近い。村田さんは「原爆の恐ろしさを知る世代が少なくなった。平和の尊さを共有し続けるために、今後も新天皇、新皇后両陛下には広島に足を運んでいただきたい」と話した。

上皇ご夫妻が95年と14年に2度訪問された被爆者向けの養護施設「恵の丘長崎原爆ホーム」（長崎市）。施設長の堤房代さん（68）は「丁寧にいたわりのお言葉をかけていただき、その優しさにただただ感激した」と振り返る。

14年にホームの活動を説明した時のご夫妻の様子から「最初の

訪問後も気にとめてくださっていたことが分かった」という。堤さんは「平成の時代はずっと被爆者への思いを大切にされ、感銘を受けてきた。新たな時代もお元気で平和への歩みを見守っていただきたい」と願っている。

●沖縄

上皇さまは皇太子時代の1975年、沖縄県を初訪問された。戦争の傷痕は深く、皇室に複雑な感情が残る中での訪問だったが、名護市の国立ハンセン病療養所「沖縄愛楽園」も訪れ、入所者らと親しく交流された。



ハンセン病療養所「沖縄愛楽園」を訪れた

上皇ご夫妻（1975年7月、沖縄県名護市）＝共同
ハンセン病は予防や完治が可能な病気だが、強制隔離政策による病気への誤った認識から元患者らは差別に苦しんだ。同園自治会長の金城雅春さん（65）は「偏見や差別が強く、手を握るなんてありえなかった。（ご夫妻の訪問で）一般の人々の印象が一気に変わったと思う」と話す。感激した入所者らは沖縄の船出歌「だんじょかれよし」を涙ながらに歌い、ご夫妻を見送った。

93年に歴代天皇として初めて沖縄県を訪れた際、名護市内の公民館で金城さんらと面会された。「みなさんお元気ですか」「お変わりないですか」。代わる代わる声をかけられるご夫妻の姿に、金城さんは「ずっと気にかけてくださっていたのか」と胸を震わせた。

20分間の面会が終わりに近づいた時、同席していた1人が「だんじょかれよし」を歌い始めた。金城さんが止めようとする、上皇さまは「いいですよ」と目を閉じて最後まで聞き入られた。上皇さまは沖縄の歴史や文化を深く学び、伝統的な定型詩の琉歌（りゅうか）も詠まれた。75年の訪問後も沖縄愛楽園に返歌として琉歌を贈られた。その後「この歌をみんなで歌えたら」という入所者の願いを聞いた上皇さまは、上皇后さまに曲を付けることを勧められた。こうして生まれた歌「歌声の響」は今年2月の天皇陛下在位30年記念式典で披露された。

金城さんは「ご夫妻の姿がきっかけで随分と環境が良くなった。感謝の気持ちは言葉にならない。機会があればゆっくり今の状況を見に来ていただきたい」と語った。

政府、皇室の伝統と憲法との整合性考慮

産経新聞 2019.4.30 20:10

憲政史上初の天皇陛下の譲位で、政府が心を砕いてきたのは憲法との整合性だった。政府は皇室の伝統を守りつつ、譲位に伴う一連の儀式を国事行為として執り行い、国民主権を重視する姿勢を打ち出した。

「天皇とは2000年以上続く歴史と伝統を体現すると同時に、法制度としての存在でもある。これを完全に区別することはできない」

政府関係者は1817年の光格天皇以来、202年ぶりの譲位

を受けた苦勞をこう語る。

政府は30日の「退位礼正殿の儀」（退位の礼）と5月1日の「剣璽等承継（けんじとうしょうけい）の儀」について、憲法に定めた皇位継承に伴う儀式であるため、国事行為として国費を投じて行うことを決めた。一方で、憲法20条は「何人も宗教上の儀式や行事に参加することを強制されない」「国はいかなる宗教的活動もしてはならない」と定める。信教の自由と政教分離原則を引き合いに、皇位継承に関する儀式に国費を使うことに批判的な声もあることから、細心の配慮がなされた。

平成の代わりに伴う儀式では、地方自治体の知事らが参列の合憲性を争われた最高裁判決が3件あり、いずれも政教分離の原則に反しないとして被告の県が勝訴した。政府はこの最高裁判決を根拠に、皇位継承に伴う儀式は原則、平成改元時を踏襲することにした。

剣璽等承継の儀では、国と天皇の印「国璽」「御璽（ぎょじ）」と合わせて、皇位の証しとされ「三種の神器」と呼ばれる「剣」と「璽（勾玉＝まがたま）」を引き継ぐが、政府は憲法違反との指摘を受けないよう、これらを「皇位とともに伝わるべき由緒ある物」と位置付けた。退位礼正殿の儀ではいったん剣と璽を持ち帰り、剣璽等承継の儀で再び新たに即位される天皇陛下の前に置くなど細目も厳格に分けた。

退位礼正殿の儀は、最初に安倍晋三首相が国民を代表し、皇室典範特例法に則って天皇陛下の譲位を表明した。天皇陛下が先にお言葉を述べられ「自らの意思で譲位する」と解釈されれば、天皇の政治関与を禁じた憲法4条に抵触する恐れがある。首相が先に発言するのは、国民の代表が集まる国会が制定した法律に基づく譲位だとはっきりさせるためだ。

平成28年8月、天皇陛下が国民向けのビデオメッセージで譲位のご意向をにじませた直後、政府は憲法との整合性が「ギリギリだ」（官邸筋）と困惑を隠さなかった。以後2年9カ月、政府は皇位継承に国民の共感を得た形で一連の儀式を準備し、これまで大きな混乱はみられない。

ただ、政府高官は「感慨にふけっている場合ではなく、まだまだ気を引き締めないといけない」と話す。10月22日の「即位礼正殿の儀」（即位の礼）など、今後も重要な儀式が控えている。

11月の大嘗祭（だいじょうさい）をめぐるっては、秋篠宮さまが昨年、国費ではなく、天皇ご一家の私的な費用である内廷費からまかなうべきだとの認識を示され、政府内に衝撃が走った。

皇室の長い伝統と幅広い国民の理解をどう両立するか。政府の模索は当面続く。（小川真由美）

閣議 儀式での天皇陛下のおことば決定

NHK2019年4月30日 15時34分



憲政史上初めてとなる天皇陛下の退位の儀式、「退位礼正殿（た

いれいせいでん)の儀」を前に、政府は閣議を開き、儀式での天皇陛下のおことばと安倍総理大臣のあいさつを決定しました。

政府は午後3時から閣議を開き、憲政史上初めてとなる天皇陛下の退位の儀式、「退位礼正殿の儀」で、天皇陛下が述べられる国民へのおことばと、国民を代表して安倍総理大臣が行うあいさつを決定しました。

「退位礼正殿の儀」は午後5時から皇居 宮殿の「松の間」で行われ安倍総理大臣ら三権の長や閣僚、地方公共団体の代表などが参列します。

また天皇皇后両陛下の外国訪問で、首席随員を務めた森 元総理大臣、高村 元外務大臣、川口 元外務大臣も参列することになっています。

儀式では天皇陛下が皇后さまとともに「松の間」にお出ましになったあと、歴代天皇に伝わる三種の神器のうちの剣(つるぎ)と曲玉(まがたま)、それに国璽と御璽が「案(あん)」と呼ばれる台の上に置かれます。

そして安倍総理大臣が天皇陛下への感謝などを述べたあと、天皇陛下が国民に対する最後のおことばを述べられることになっていて、憲法で定める国事行為として天皇陛下が臨まれる最後のご公務となります。

一方、政府は1日、臨時閣議を開き、皇太子さまが新天皇に即位後、最初に臨まれる「剣璽等承継(けんじとうしょうけい)の儀」を国事行為として行うことなどを決定することにしています。首相「両陛下に改めて心から感謝」

安倍総理大臣は閣議のあとの閣僚懇談会で、「天皇陛下には皇室典範特例法の定めるところにより、本日限りで御退位される。この後、宮中において、国事行為である国の儀式として『退位礼正殿の儀』が執り行われる。平成の30年、常に国民に寄り添ってこられた 天皇皇后両陛下の歩みに思いを致し、この機会に改めて心から感謝申し上げたい」と述べました。

【令和に寄せて】麗しき大和の国柄を守れ 櫻井よしこ・国家問題研究所理事長

産経新聞 2019.5.1 01:05

日本よ、麗しき善き大和の国であれとの願いを込めた「令和」の時代が始まった。十七条憲法の精神を引き継ぐとされる元号、令和の時代の課題は聖徳太子が脱中華と大和の国造りを目指したように、日本の国柄を誇りをもって定着させることである。

平成の御代には多くのことが成された一方、積み残しの課題も多い。その筆頭が日本の国柄とはおよそゆかりのない現行憲法の改正である。

敗戦当時、内外の視線は昭和天皇に厳しかった。戦勝国では「天皇戦犯論」「天皇処刑論」が展開された。先人たちはそれら敵意溢(あふ)れる糾弾から、皇室を戴(いだ)く日本の国柄を守り日本国として生きのびるために、現行憲法をはじめ占領軍による理不尽な制度改革を、棒を呑(の)み込む覚悟で受け入れた。

マッカーサー司令部は昭和天皇を温存し、占領政策を円滑に進めたが、背後では日本の国柄を潰す試みがなされていた。情報は

厳しく統制され、国民は米国の支配を善きものと歓迎し、民主主義などは米国がもたらしたと思ひ込み始めた。そのとき、昭和天皇が詔勅を発せられた。

昭和21年1月1日の詔勅の冒頭に、昭和天皇は明治天皇の「五箇条の御誓文」全文を置かれた。後にこの御心について語っている。

「民主主義を採用したのは、明治大帝の思召しである。(中略)『(民主主義を体現する)五箇条御誓文』を發して、それがもたくなって明治憲法ができた。民主主義というものは決して輸入のものではないということを示す必要が大いにあった」

政府や国民が涙をのんで日本の国柄とは言えない米国製憲法を受け入れたのは皇室と国柄を守るためだった。にもかかわらず、国民が日本の国柄を忘れるのは本末転倒だというお気持ちであろう。占領下でこの重要な詔勅を出された昭和天皇は立派な帝王学を身につけていらした方だ。

昭和天皇はどのように帝王学を学ばれたのか。東宮御学問所には全分野にわたる碩学(せきがく)が集められ、白鳥庫吉(くらきち)博士が教務全般の主任を務めた。皇統の継承者にとって不可欠の学問である歴史は、白鳥博士が7年間一人で受け持ち、国史、東洋史、西洋史のうち、国史と東洋史の教科書は博士自ら執筆した。『昭和天皇の教科書 国史』がそれで、見事な歴史書である。優れた教育、深い歴史観を身につけられた昭和天皇にして、初めて日本はあの敗戦を乗り切れた。

だが、国柄を忘れてはならないとの昭和天皇の国民への語りかけとは反対に、米国は教育を通して日本人に影響を及ぼし続けた。米国の情報操作の苛烈さはここではおくが、米国は天皇となる東宮さま(現在の上皇さま)の家庭教師にクエーカー教徒のバイニング夫人をつけた。夫人は著書『皇太子の窓』に、「1946年の春」、昭和天皇が「アメリカ人の家庭教師を一人世話してもらえだろうか」と米側に依頼されたとし、「アメリカ人の家庭教師は占領軍から押しつけられた」との推測は事実と反していると書いている。

一方、マッカーサーの軍事秘書、フェラーズは46年1月、吉田茂外相に「皇太子は西洋の思想と習慣を学び始めるべき」として「円熟したアメリカ人女性を」家庭教師につけるよう提案した(瀬畑源(せはた・はじめ)『象徴天皇制の形成過程—宮内庁とマスメディアの関係を中心に—一橋大学機関リポジトリ)。これは天皇のご依頼の約2カ月前だ。背後に米国の意図が見えないか。

昭和天皇が民主主義は外来の価値観ではなく日本の価値観であることに想いをいたせと詔勅で仰るかたわら、バイニング夫人は「英語を教えるということは(中略)アメリカ的な民主主義の思想と実践とを、皇太子殿下その他の生徒達に教えるという、さらに大きな仕事の方便にすぎない」と考えていた(前掲書)。このせめぎ合いの中で若き日の上皇さまは教育された。天皇としてのお姿が、昭和天皇と比べて自ずと異なるのにはこうした要素もあるだろう。

PR では新たに即位した天皇陛下の受けられた教育はどうか。学習院には帝王学の発想もなく、ご学友もいないと学習院大学の教授だった篠沢秀夫は書いている(『だから皇室は大切なのです』)

草思社)。

『浩宮の感情教育』(飛鳥新社)の著者、小坂部元秀氏は陛下が学習院高等科にご在籍当時、クラス担任を2年間務めた。皇室関係の在学生名が大書されている学習院父母会名簿の最初のページを学生が「破り棄て」るはなしが、小坂部氏の著書の「序章」に出てくるのだが、小坂部氏はその行為をもっともだと認めているかのようだ。別の章で小坂部氏は南原繁の国会演説を「記念碑的」と評価し、「所詮は天皇陛下なんてどうでもいい」と書いた詩人の三好達治や、中野重治らを賛美している。

当時の浩宮親王殿下に小坂部氏が担任教師としての愛情や情熱を注いでいたとは考えにくく、陛下にとって学習院の教育環境は実に冷淡だったと推測できる。

こんな状況に皇族方を放置して、私たちに立派な天皇像を望む資格があるのか。帝王学や皇室は、国民から遊離したものではない。国民が望む天皇像は、国民がどのような価値観を重視し、どれほどの敬愛をもって皇室を支えるかという命題と背中合わせだ。令和の皇室が日本の国柄を尊び、国民統合の中心となるには、新天皇の大いなる学びをあらゆる面で支える制度と心が、政府、国民の側にも必要だ。共に立派な国を創るという覚悟をもって初めてもうひとつの課題の憲法改正も可能になる。

米国務長官発言を非難＝「時が来れば非核化」－北朝鮮高官

時事通信 2019年04月30日 22時47分

【ソウル時事】朝鮮中央通信によると、北朝鮮の崔善姫第1外務次官は30日、ポンペオ米国務長官が米メディアとの最近のインタビューで対北朝鮮政策を変更する可能性に言及したことについて、「軍事的方法を動員してでも、われわれの制度を崩壊させようとする愚かで危険な発想だ」と非難した。

崔氏はまた、米側の姿勢次第と条件付きながらも、「われわれの非核化の意志に変わりはなく、時が来れば非核化する」と強調。その上で、金正恩朝鮮労働党委員長が4月の演説で、年末まで「米国の勇断を待ってみる」と述べたことに触れ、米国が期限内に立場を示さなければ「望まない結果を見ることになる」と警告した。

北朝鮮高官、米国務長官を批判 非核化意志も強調

2019/4/30 21:27 共同通信社



北朝鮮の崔善姫第1外務次官

【北京共同】北朝鮮の崔善姫第1外務次官は30日、ポンペオ米国務長官が、非核化交渉が失敗した場合は軍事的な手段に出ることもあり得るとの考えを示したと批判、年末までに北朝鮮が受け入れ可能な提案を示すよう要求した。朝鮮中央通信の質問に答

えた。

崔氏は米国が態度を変えることを条件に「われわれの非核化意志には変わりなく、時が来れば非核化するだろう」とも強調した。米側に譲歩を迫りながらも米朝交渉継続の意思を示した形だ。

ポンペオ氏は24日、米CBSテレビとのインタビューで、交渉が失敗した場合は「進路を変えざるを得ない」と述べた。

北朝鮮が米国務長官の発言を非難 非核化交渉をめぐる

朝日新聞デジタルソウル＝神谷毅 2019年4月30日 19時14分



北朝鮮の崔善姫第1外務次官＝2019年4月2

6日、ロシア・ウラジオストク、竹花徹朗撮影

北朝鮮の崔善姫(チェソンヒ)・第1外務次官が30日、米朝協議に携わるポンペオ米国務長官の発言を非難した。朝鮮中央通信が同日、伝えた。

ポンペオ氏は24日、米CBSテレビのインタビューで、北朝鮮との非核化交渉が失敗した場合には「ルートを変える」と述べた。同通信によると、これについて崔氏は「軍事的な方法を動員してでも必ず我々の制度を崩壊させようとする危険な発想だ」と非難。そのうえで、金正恩(キムジョンウン)朝鮮労働党委員長が12日に「今年末までは忍耐をもって米国の勇断を待つ」と語ったことに触れ、「期限内に立場を出してこない場合、米国は願わない結果をみることになるだろう」とした。(ソウル＝神谷毅)